

施策評価（平成28年度）

施策評価調査

政策コード	5	政策名	未来を担う教育・人づくり戦略		
施策コード	5	施策名	生涯学習を行動に結び付ける環境と芸術・文化に親しむ機会づくり		
幹事部局	教育庁		担当課	高校教育課	
評価者・実施日	1次評価（教育委員会）		平成28年7月14日	2次評価（企画振興部長）	

1 施策の目的等（政策との関連、必要性、取組内容、取組後の姿 など）

地域コミュニティを活性化する取組や魅力ある地域づくりへの住民参加を促進し、元気な秋田づくりにつなげていくため、生涯学習の成果を行動に結び付ける環境づくりや文化遺産等の保存・活用に取り組むほか、読書活動や芸術・文化体験活動を通じて豊かな情操を育むとともに、共感を通じて人と人とを結び付け、協働・共生する心、主体的に判断し適切に行動する力の育成を図る。

2 施策の状況

(1) 代表指標の状況

●施策目標(評価指標)		基準値	年度	H25	H26	H27	H28	H29	直近の達成率	達成度
		年度								
①	地域で活動する行動人(こうどうびと)の人数	16,332	目標		40,000	45,000	50,000	55,000	103.9%	A
		H24	実績	32,190	41,703	46,761				
	県・生涯学習課調べ	単位:人	達成率		104.3%	103.9%				
②			目標							
			実績							
			達成率							

※達成度の判定基準 A:100%以上 B:80%以上100%未満 C:60%以上80%未満 D:60%未満

(2) 代表指標の分析（推移の状況、実績・達成率の認識、全国順位等）

平成24年度から、県民総「行動人」推進事業の中で、「学んだことを行動に結び付け、社会に貢献しようとする『行動人』」の紹介人数を指標としている。平成26年度は累計40,000人、平成27年度は累計45,000人を目標としてきた。行動人が全県的に認知されつつあり、市町村からの情報提供も増え、目標達成につながった。平成30年度末に累計60,000人の紹介人数を達成するために、平成28年度以降も毎年度5,000人増を目標としている。

(3) 関連指標の状況

●施策目標(評価指標)		基準値	年度	H25	H26	H27	H28	H29	直近の達成率	備考
		年度								
①	課題支援公立図書館・公民館図書室の割合	27.1	目標		50.0	60.0	70.0	80.0	126.2%	
	県・県立図書館調べ	H24	実績	38.6	67.1	75.7				
②	芸術・文化施設におけるセカンドスクールの利用者数	22,153	目標		23,500	24,000	24,500	25,000	115.1%	
	県・生涯学習課調べ	単位:人	達成率		134.2%	126.2%				
③	国・県指定等文化財の新規件数(累積)	4(720)	目標		4(738)	4(742)	4(746)	4(750)	125.0% (100.8)%	
	県・生涯学習課文化財保護室調べ	H24	実績	9(729)	19(747)	5(748)				
④			目標							
			実績							
			達成率							
⑤			目標							
			実績							
			達成率							
⑥			目標							
			実績							
			達成率							
⑦			目標							
			実績							
			達成率							

(4) 関連指標の分析(推移の状況、実績・達成率の認識、全国順位等)

①課題解決支援に関わるコーナーを設置している市町村立図書館・公民館図書室の割合は、平成24年度以降、継続して増加し、平成27年度は75.7%と目標を上回った。県立図書館が重点的に実施してきた市町村支援の効果と考えられる。

②芸術・文化施設におけるセカンドスクールの利用者数は、目標を上回った。平成27年度にスタートした「あきたの子ども文化体験促進事業」により、美術館を利用する学校が大幅に増加したことが一つの要因である。

③国、県指定等文化財の新規指定件数は、県指定を進めることにより着実に増加している。

(5) 施策の推進状況（施策の方向性ごとに記載）

① 多様な学習機会の提供と学んだことを行動に結び付ける環境づくり

●取組① 学習機会の充実とその成果の社会への還元

・「秋田スマートカレッジ」では、20種109回の各種教養講座に加え、県機関や他の文化施設との「連携講座」を実施し、市町村と連携した「地域活性化支援講座」を開設した。
・「行動人」のネットワーク化を図るため、「行動人交流集会」を開催するとともに、行動人が自らの活動を県民に紹介する11の企画講座の支援を行い、県民の気運の醸成に努めた。

●取組② 読書活動の推進に向けた環境の整備

・全市町村における「子ども読書活動推進計画」の策定に向けて、市町村教育委員会を訪問し助言や情報提供を行ったことにより、平成27年度末までに、全市町村で策定が完了した。これにより、それぞれの実情に応じた読書活動を推進する体制が整った。
・県立図書館の「打って出る図書館」事業により、市町村立図書館・公民館図書室への支援を継続して行った。訪問や研修等、様々な方法で課題解決支援コーナーに関する情報提供や助言を行ったほか、県立図書館ホームページでも取組を行っている市町村立図書館等の情報を紹介した。

② 芸術・文化体験活動の推進と文化遺産等の保存・活用

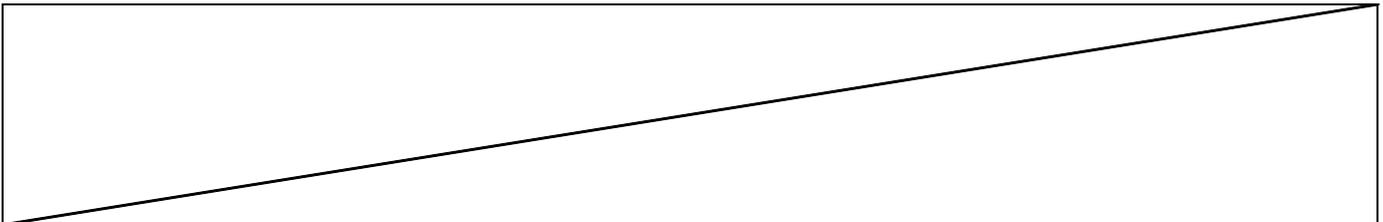
●取組① 豊かな心や感性、創造性を育む芸術・文化体験活動の推進

・幅広い世代を対象とする美術館教室や博物館教室等を開催し、多くの県民が参加した。
・「秋田県青少年劇場」や「文化芸術による子供の育成事業」など、児童・生徒が音楽や演劇などの優れた芸術・文化に触れる機会を提供した。

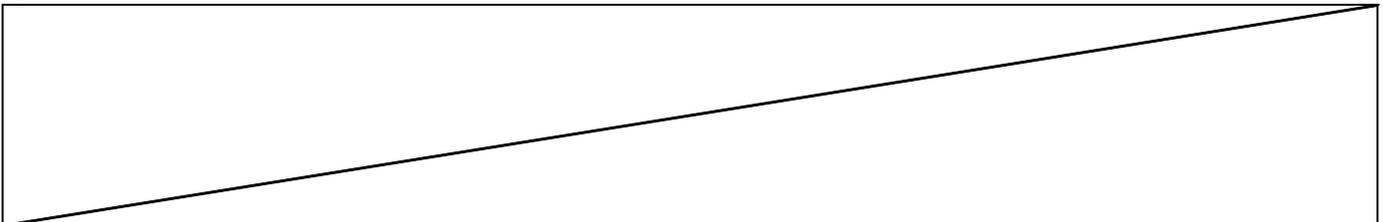
●取組② 有形文化財や民俗文化財、記念物など文化遺産等の保存・活用

・文化遺産等の保存・活用については、県指定有形文化財の修理に助成するなど、着実に進められている。
・重要文化財天徳寺保存修理事業に着手し、本格的な解体修理の準備を始めた。
・横手市で開催された地域伝統芸能全国大会では多くの民俗芸能等を披露し、県内外へ魅力発信を行った。
・民俗芸能の後継者育成を目的とし、小学校を会場とした民俗文化財公開交流事業の取組を開始した。
・「あきたの縄文遺産パスポート」によるシールラリーを行うなど、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録に向けた取組をPRし、登録への気運醸成に努めた。

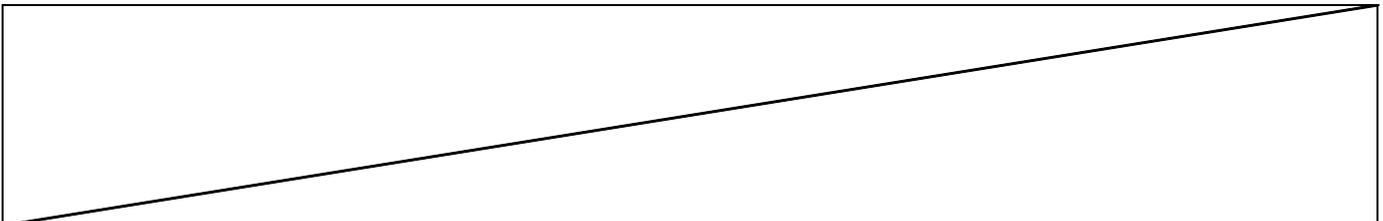
③



④



⑤



3 総合評価

(1) 教育委員会による1次評価

評価結果	順調
評価理由	代表指標、関連指標については、全ての指標で目標を達成している。「あきたの子ども文化体験促進事業」により、多くの子どもたちが芸術・文化に触れる機会となった。また、全市町村で子ども読書活動推進計画の策定が完了するなど、重点的に実施してきた市町村支援の成果が表れている。 県民へ多様な学習の機会を提供するとともに、行動人の活動支援を行うなど、学習の成果を還元するような取組への支援も進められている。 また、文化財の指定・保存、民俗芸能の後継者の育成につなげる交流事業などに加え、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録を目指す気運を醸成する取組を行うなど、文化遺産等の保存・活用は着実に進められている。 以上のことから、本施策の評価は「順調」とする。

(2) 企画振興部長による2次評価

評価結果	順調
評価理由	多様な学習機会の提供等については、各種講座の開催に加え、行動人のネットワーク化を図るとともに、行動人の活動支援を行うなど学習の成果を還元する取組を進めているほか、課題解決支援コーナーを設置するなどの取組を行う公立図書館等への支援を行っている。 芸術・文化体験活動の推進等については、児童・生徒が音楽や演劇などの優れた芸術に触れる機会の提供のほか、文化財の指定保存、民俗芸能の後継者育成に向けた交流事業等の取組を行っている。 これらの取組により、代表指標、関連指標については、全ての指標で目標を達成している。 以上のことから、施策は「順調」と評価される。

4 課題と今後の対応方針

① 課題（施策目標達成に向けた新たな課題、環境変化等により生じた課題 など）

- ・「行動人」を社会教育機関・関係者を越えた広い範囲へ浸透を図ること、「行動人」の活動を地域コミュニティ活性化や地域づくりに結び付けていくことが課題である。
- ・県内の児童生徒数の減少により、芸術・文化施設におけるセカンドスクールの利用者数の伸びは、今後鈍化するものと見込まれる。
- ・「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録を見据えて、県民の気運を高める取組が求められている。
- ・伝統・風習などを踏まえたストーリーの下に文化財をパッケージ化して活用を図る日本遺産の認定を目指し、秋田の文化遺産の魅力を発信する取組が求められている。

② 今後の対応方針（重点的・優先的に取り組むべきこと）

- ・「行動人」をウェブ上で紹介することに加え、地域づくりの観点で、更なるネットワーク化とその活動をきめ細かく支援していく。また、若い世代の「行動人」を育成し、若い世代が地域づくりに参画する機会を提供していく。
- ・「秋田の子ども文化体験促進事業」により、ふるさと秋田への理解と愛着を深める活動を促進するとともに、セカンドスクールの利用の促進を更に図るために、各学校への周知・広報活動等に力を入れていく。
- ・「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録を目指し、課題解決に向けて取り組むとともに、世界遺産登録を見据えた県民意識の醸成を図る事業を拡充する必要がある。
- ・県民が文化遺産について最新の正確な情報をもつことができるよう、様々な文化財関係の情報を資料化するとともに、県民ニーズに対応した文化財の公開と積極的な活用機会づくり等に取り組んでいく必要がある。
- ・新たな郷土の文化資産づくりが着実にできるよう、文化財の指定及び保存と活用に関する事業を更に推進していく必要がある。

5 政策評価委員会の意見

--